

日系アメリカ人の歴史を通じた米国理解

名古屋市立長良中学校
浅井真樹

はじめに

日系アメリカ人について最初に興味をもったのは、小学生の頃偶然見た日本で放映していたアメリカのテレビドラマの1シーンを見た時であった。ドラマの主人公の白人少年の家にある日、近所に住む日系人の友人が遊びに来る。その少年がアルバイトで旅費を貯めて日本の祖父母の所に自分で遊びに行くと言う。それを聞いた主人公の両親が日系人の少年に比べ、自分の子供の不甲斐なさを嘆くという場面があった。これを見て、同じ小学生でも、アメリカの日系人の少年はこんなにしっかりしているのかと当時の自分には大きな驚きであった。しかし、今にして思うと、「日系人は勤勉でしっかりしている」という典型的なステレオタイプ像がそこにはあったと思われる。このような日系人に対するステレオタイプ像が人種の偏見もあいまって、戦前の排日運動、さらには戦中の日系アメリカ人の強制収容という悲劇を生み出したのではないだろうか。

これまでのアメリカは、多様な言葉や文化をもつ人々を受け入れることにより、活力ある国を築き上げてきた。しかし、9・11の同時多発テロ以来、現在のアメリカ社会には他民族に対する寛容さが欠けているように思われる。特に、イスラム系住民に対する嫌がらせ、暴力などが増加した。そのような動きに真っ先に異を唱えたのは日系アメリカ人の団体であった。歴史は繰り返すというが、今こそ日系アメリカ人の歴史を検証することが、現代アメリカの姿を理解する上で重要なのではないだろうか。

日系アメリカ人の歴史

アメリカへの日本人移民が始まって約130年になる。この間、日系アメリカ人は様々な苦難の歴史を経験してきた。この歴史を、「初期移民期」「排日運動期」「第2次世界大戦期」「戦後期」の4期に分けて検証していきたい。

1 初期移民期

1868年、つまり明治元年「元年者」と呼ばれる日本人最初の海外移民153名がハワイに砂糖きび農場の労働者として渡った。しかし、彼らはハワイで奴隷同様の扱いを受け、明治政府に救出されることになった。アメリカ本土には1869年に会津藩出身の150名ほどがオランダ人エドワード・シャネルに率いられ渡った。カリフォルニア州に「若松コロニー」を開くが、この入植は1年半で挫折してしまう。

1882年、中国人排斥法が成立し中国人労働者の入国が禁止されると、中国人労働者の代わりとして日本人労働者が注目を集める。1885年、当時のハワイ王国と日本政府との契約による官約移民1930人がハワイに渡った。移民を送り出した当時の日本は、西南戦争後の不況に襲われ、特に農村は凶作も加わり深刻な状態であったため、移民の背景には政府の農村救済策という側面もあった。1894年に官約移民制度が廃止されるまでに、約3万人がハワイに渡った。その後は、民間の移民会社が移民を斡旋し、多くの人々がハワイやアメリカ本土に渡り、アメリカ本土に暮らす日本人も6000人を越した。しかし、この時期アメ